

日本大学 生産工学部



日本大学副学長・生産工学部長
落合 実

おちあいみのる ●千葉県出身。1976年日本大学生産工学部卒。1978年日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程土木工学専攻修了。専門は環境影響評価・環境政策、海岸工学、水工水理学。2010年海洋調査技術学会技術賞受賞。2014年より生産工学部長。

さまざまな海外の生産現場で マネジメントができる技術者を育成

就業後数年での
海外赴任に対応

—どのようなグローバル人材
の育成をめざしていますか?—

本学は日本で唯一の生産工学部です。工学の専門知識修得に加えて、経営やマネジメントの素養を身につけた「ビジネスエンジニア」の育成が目的です。3年生の必修科目として、早くから企業や官公庁と連携した生産実習（インターンシップ）を取り入れ、将来

働く姿をリアルにイメージできる
課程の構築を行ってきました。

しかし近年、卒業生は就業後数年たつと、マネジメントする立場で海外の生産現場へ赴任し始めています。そこで、さまざまな海外現場で活躍できる「グローバル・ビジネスエンジニア」の育成が必要となってきたのです。

—グローバル・ビジネスエンジニアの育成目標を教えてください。

海外で活躍するためには何が必

称「Glo-BE」です。

知識先行でなく

体験先行のプログラム

—Glo-BEの内容や特徴を教えてください。

Glo-BEは2つの正課科目と正課外教育からなり（次頁左上図）、正課科目は専任教員とベネッセグループの講師が共同で授業を行っています。

*Global Business Engineer Program の略

希望者は1年生の春休みの米国海外研修で、他国学生と一緒に、語学研修を受講できる。語学研修だけでなく、工場見学などのアクティビティもある。



ル・ビジネスエンジニアリング（G B E）です。主に、グローバル社会へ挑戦するためのマインドセットや協働的課題解決能力を育成します。PBL型演習で、ベネッセ・キャリアのノウハウを取り入れ、現実世界の課題に向き合い、グローバルな視野を身につけ、論理的交渉力や、チームで課題を解決していく力を磨きます。

ナルのプログラムです。正課外教育は自宅学習の「英語インプット（eラーニング）」です。英語の学習を習慣化し、語彙力・リスニング力などを向上させます。プログラムの開発にあたっては、知識先行でなく、まず経験して気づきを与えることを重視しました。G B Eでは、海外展開をしている企業に訪問のアポを取り、質問を考え、ヒアリングを行います。その内容をプレゼンテーションします。教員は必要な事前準備のアドバイスは行いますが、学生は自分たちだけで訪問し、成功体験も失敗体験も共有することで、気づ

きを得ます。授業を受けることに、グローバル社会を理解し、チームで課題解決するおもしろさに気づけば、専門の学びへの意欲にもつながります。英語が苦手でも、体験を通して海外で働くという将来の姿を動機にすれば、苦手意識を乗り越えられると期待しています。実際の海外体験としては、米国シアトルのELLS（全米最大の留学生を受け入れる語学学校）で、希望者による海外研修を実施（写真）します。3年生向け海外インターンシップ実施も検討中です。

—なぜ選抜制にしたのですか。

学科単位で人数枠を設けて、学科混成で活動することから、意識の高い学生を集めたかったのです。彼らが自分の所属する学科に戻ったとき、他の学生により影響を与えることも期待しています。

当初は、英語が苦手な理系学生が多い状況の中で50名の定員が充足できるか危ぶまれました。しかし、新入生へ「英語が苦手でもよい」と訴求すると、250名以上が応募。学科ごとに選抜を行い、結果的には51名の学生を学科の偏りなく選抜できました。

選考に漏れた学生には、Glo-BEのエッセンスを盛り込んだ「サマープログラム」を優先的に案内し、フォローを行っています。

継続参加ができる学生の
選抜方法が課題

—1年目を終えてみて、出た
成果と課題を教えてください。

学習成果として、英語力の向上はTOEICの得点などから明らかで、英語の対話への抵抗感は低減してきています。学生アンケートからは、「物事の捉え方や視野が広がった（90%）」「自分の立場を客観的にみられるようになった（90%）」「授業中の活動に積極的になった（93%）」などの意見があり、学生は気付き、意欲を高め、そして、行動し始めています。一方で、2年生のプログラムには数名が継続しませんでした。別の道に踏み出した者もいますが、授業についていけない者もいます。今後は、エントリーシートの見直しなど、選抜方法の再検討を行って、継続的に参加できる学生を選抜できるよう工夫していきます。

学外の方と共にプログラムをつくったことで、生産実習など、本学部の持つ価値に改めて気づき、それがプログラムの開発にも生きました。今後も学外の意見に耳を傾けながら、日本で「唯一」の生産工学部の名にふさわしいユニークな教育を実践していきます。

Glo-BEプログラムの全体像

